



## 地域と学校の連携・協働

### ～岩手独自の教育振興運動～

2020年からの新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有し社会と連携・協働しながら未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「**社会に開かれた教育課程**」の実現を重視し、その理念を前文に明示しています。

この理念の実現に向けては、組織的・継続的に**地域と学校が連携・協働**していくことが重要であり、具体的な取組として、**コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）**や**地域学校協働活動**が示されました。また、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進することが大切であるという考えのもと、全国各地で様々な取組が進められています。

本県ではコミュニティ・スクールは、令和4年度までで、33すべての市町村が導入し、小中義務教育学校の導入率は64.1%（全国は48.6%）、高等学校、特別支援学校の導入率も全国を大きく上回っています。

地域学校協働活動については、本県独自の教育活動である**教育振興運動**をはじめ、学校支援活動や放課後子ども教室、子ども会や市民センター事業など様々な活動が行われています。地域と学校の連携、家庭や行政も加わり一体となって地域に根差した活動が組織的・継続的に行われてきた背景には、本県独自の活動である教育振興運動によるところが大きいと感じます。

教育振興運動は子どもの健全育成や家庭や地域の教育力の向上など、教育環境の整備充実に大きな役割を果たしてきました。半世紀以上の長きにわたり県内市町村、各地区で展開されてきた教育振興運動は、時代の流れとともに具体的目標や

重点施策が変わることはありましたが、子ども・家庭・学校・地域・行政の5者がそれぞれの役割を果たしながら、地域の教育課題の解決に自主的に取り組む教育運動として

変わることはありませんでした。平成21年度からは**全県共通課題**を設定し、市町村、各地区で工夫を凝らした様々な取組が展開されてきました。

また、市町村や各地区で

は取組の評価検証を行い、改善を図り、集約大会を開催するなどマンネリ化や組織の固定化などの課題を議論しながらも脈々と活動が続いてきました。

しかし現在は、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進が求められ、教育振興運動の在り方についても各市町村、各地区で検討が進められています。教育振興運動の組織はこれまでどおり継続し活動を推進している地区、コミュニティ・スクールの導入により組織の変更や移行、解散など地区によっても様々な考え方はありますが、解散した地区でも教育振興運動で実践してきた活動は継承されています。

50年以上も活動が続いてきた教育振興運動はこれまでも、「役割を終えた」とか「活動の終了」などの声もありましたが、運動の理念や意義、役割の重要性を再確認することで、今日まで活動が続いています。そして、教育振興運動は子どもの健全育成や家庭・地域の教育力の向上だけでなく、今、求められている「地域づくり」や「地域おこし」にもつながる可能性を秘めていると思います。

これからも岩手独自の教育振興運動の理念は失われることはなく、形を変えながらも地域や学校の連携・協働の礎として受け継がれていくものだと感じています。

（所長：外館 邦博）



# 社会教育主事（社会教育士）の育成について

## はじめに 社会教育主事・社会教育士とは

### 1 社会教育主事

都道府県及び市町村の教育委員会の事務局に置かれる専門的職員で社会教育を行う者に対する専門的技術的な助言・指導に当たる役割を担います。

職務の例としては

- (1) 教育委員会事務局が主催する社会教育事業の企画・立案・実施
- (2) 管内の社会教育施設が主催する事業に対する指導・助言
- (3) 社会教育関係団体の活動に対する指導・助言
- (4) 管内の社会教育行政職員等に対する研修事業の企画・実施

など、その業務は多岐にわたっています。

### 2 社会教育士

文部科学大臣の委嘱を受けた大学等の教育機関が実施する講習や大学での社会教育主事養成課程を修了した人たちの称号です。従来からある「社会教育主事制度」を拡張する形で、令和2年度から始まりました。社会教育士の活躍の場は幅広く、所属する場を問いません。

社会教育士の仕事内容は多岐にわたります。例えば次のような取組が考えられます。

- (1) 企業やNPOでSDGs活動への主体的な参加を促す取組
- (2) 行政や自治体でのダイバーシティを生かした学習支援、産学連携を促す取組
- (3) 社会教育施設での地域資源を活用した事業と関係団体等をコーディネートする取組

## 本県の現状

### 1 岩手県関係機関の施設における社会教育主事

令和5年度は、50名（小中学校籍45名、県立学校籍5名）の社会教育主事が、県内の行政機関や青少年の家等の社会教育施設で、社会教育の推進、児童生徒の体験活動のサポート等の業務を行っています。

### 2 市町村における勤務別社会教育主事有資格職員数

各市町村教育委員会43名、各市町村公民館6名、各市町村図書館3名、その他210名の合計262名（令和4年度社会教育基本調査より）の社会教育主事がそれぞれの立場で社会教育の推進を図っています。

## なぜ社会教育主事（社会教育士）が必要なの？

### 1 地域を取り巻く環境変化

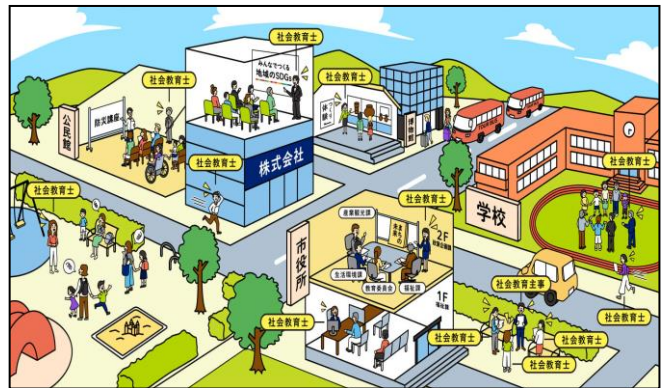
- (1) 少子高齢化と人口減少
- (2) 地域コミュニティの衰退
- (3) グローバル化、情報化等により予測困難な未来が到来
- (4) ニーズの多様化

などの変化が起きることが予測されています。

### 2 今後の社会教育に期待される役割

- (1) 地域コミュニティの維持・活性化への貢献・寄与  
学びの成果を活かした地域づくりを通じて、地域コミュニティの維持に貢献。地域の特性に応じて、交流人口の拡大と地域活性化に寄与する。
- (2) 社会的包摂への寄与  
高齢者、障がい者、外国人、困難を抱える人々など、すべての住民が孤立することなく、地域社会の構成員として社会参加できるよう社会的包摂に寄与する。
- (3) 社会の変化に対応した学習機会の提供  
長寿化により、社会変動の影響を受ける期間が長期化する中、社会で求められる能力の変化に対応した学習機会を提供する。

このように今後、社会教育主事・社会教育士は、社会教育施設や教育委員会事務局だけでなく、地方公共団体の各部署や、NPO、企業、学校などにおいて、多様な課題に取り組む際の学びのオーガナイザー（関係施策の企画・立案や事業の推進に向けて、多様な主体間のコーディネートを行い、組織をつくり出す役割）として必要になります。



（文部科学省 HP「社会教育士について」

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/01\\_1/08052911/mext\\_00667.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/01_1/08052911/mext_00667.html)）

## 本県における現在の施策や具体的取組

### 1 社会教育の中核を担う社会教育主事・社会教育士の育成

- (1) 岩手県社会教育主事有資格教員養成事業（社会教育主事講習に岩手県教育委員会が推薦する教員を派遣）
- (2) 社会教育主事講習への参加奨励（市町村への社会教育主事講習の周知）

### 2 社会教育主事講習 [B] の実施（地方会場）

令和2年度より地方会場の1つとして、岩手県立生涯学習推進センターにおいて社会教育主事講習 [B] を1月下旬から2月中旬にかけて実施しています。

### 3 校長研修、中堅教諭研修での周知・説明

校長研修や中堅教諭研修で社会教育主事の職務内容、役割、社会教育主事講習についての説明をしています。以上の施策・具体的取組を通して、社会教育主事（社会教育士）を計画的に育成しています。

（岩手県教育委員会生涯学習文化財課 生涯学習担当）

6/6(火)実施

## 読書ボランティア研修会

子どもの読書に関わる活動に必要とされる資質の向上を図り、子どもの読書活動の推進に資することを目的に、研修会を開催しました。地域の読書ボランティアや学校図書館のボランティア等137名が受講し、子どもの読書活動の普及・奨励の意義について理解を深めたり、スキルアップに

つながる実践的な研修に臨んだり、学びの多い1日となりました。



講師：児童文学作家  
くすのきしげのり氏

6/22(木)実施

## 放課後子ども総合プラン指導者合同研修会①

「子どもが自ら育つ環境づくりのための大人の役割について理解する」「子どもの遊びと育ちの環境のあり方について学ぶ」を目的とし、研修会を開催しました。矢生先生には昨年に引き続き講師を務めていただき、続編という形で講義・演習を行いました。より多くの方に学んでいただくため、

参集型とオンライン型のハイブリッド方式で開催し、併せて142名の方に参加いただきました。



講師：こども環境デザイン研究所 代表 矢生 秀仁 氏

7/6(木)実施

## 家庭教育・子育て支援活動交流研修会

科学的根拠をもとにした家庭教育・子育てに関する正しい情報を知り、交流しながら支援活動の場でできることを考え、明日からの親支援に役立てることを目的として実施し、家庭教育・子育て支援に携わる様々な業種の方々29名に参加いただきました。



講師：國學院大学 人間開発学部 子ども支援学科 教授  
博士(医学) 鈴木 みゆき 氏

8/8(火)実施

## コミュニケーションスキルアップ研修講座



「社会人として身につけておきたい、ビジネスマナーの基礎基本を学ぶ」「具体的な事例や演習を通して、良好な関係づくりのためのコミュニケーションスキルを学ぶ」を目的とし、研修講座を開催しました。小・中・高の教職員を中心に44名が受講し、講義とペアワークを通して、マナーの意義や所作のポイント、コミュニケーションの心構えを学びました。

講師：コミュニケーションアドバイザー

電話応対技能検定指導員・試験官産業カウンセラー  
田原 美晴 氏

8/10(木)実施

## 学校と地域の連携・協働研修会

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動との一体的推進の意義を学ぶとともに、「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」の両面から“持続可能”な学校と地域の連携・協働について理解を深めることを目的

に開催しました。教職員や県・市町村の行政担当者を中心に96名が受講しました。



講師：小樽市立朝里中学校前校長  
森 万喜子 氏

Webサイト「まなびネットいわて」  
に、実施要項やWeb版報告書が  
掲載されています。

二戸市教育委員会事務局生涯学習課から、特色ある事業について寄稿いただきました。

## 「き いんしゃ 槻蔭舎きぼう塾」 —主体的な学びや豊かな心を育てる事業—

「槻蔭舎きぼう塾」は、将来の進路を考え大きな志を持って自己実現と社会貢献を目指す青少年の育成を目的とし、平成23年度から主に中学生を対象として開講しています。また、当該塾は、親子で一緒に参加することができますので、家族間のふれあいを楽しみながら、保護者自身の生涯学習の場としていただくことも想定しています。

併せて、平成29年度からは小学生を対象としたジュニア槻蔭舎きぼう塾を開講。優れた文化芸術や最先端の科学にふれることで、知的関心を高められるような機会を提供しています。

8月2日(水)には「大学探訪in岩手大学」を開講。中学生9人、保護者3人が参加しました。参加者は、ミニ講義を受講したほか、図書館・資料館等の附属施設の見学や現役大学生とのトークセッションなどを通し、具体的な進路イメージを膨らませていました。



人文社会科学部本村健太教授による「デザイン思考と地域貢献」のミニ講義を真剣な眼差しで受講する参加者

この他、ふるさとの歴史や偉人について理解を深めてもらうとともに、日本の伝統・古典芸能かんだあぐりにふれる機会として9月20日(水)には講談師 神田阿久鯉先生、落語家 桂小文治師匠及びマジック きょうこ氏 他をお招きし、歴史講話「古典芸能で学ぶ田中館愛橘博士」を公開講座として実施しました。

また、9月30日(土)には移動学習として田中館愛橘博士とゆかりのある国立天文台水沢を訪問予定。博士の偉業にふれるとともに自然科学を学ぶ機会としたいと思います。

他方、ジュニア槻蔭舎きぼう塾につきましては、令和4年度は国立科学博物館(東京都)を訪問。田中館愛橘博士ゆかりの展示品や特別企画展「毒」を見学しました。今年度も昨年度同様、首都圏にて文化芸術又はスポーツ施設を見学し、感動や発見を通じて知的好奇心を高め、主体的な学びや豊かな心を育む機会を創出したいと考えています。

槻蔭舎とは..

安政5年(1858年)、二戸市福岡のとんこう香香稻荷神社のおほないまごろく神主・小保内孫陸は、息子の定身さだみを訪ねて来た長こぐらこんどう州のかい小倉鯉堂と相談し、福岡の青年を集めてほしや※会輔社という塾をつくり、授業は孫陸の茶室「槻蔭舎」で行いました。

また、香香稻荷神社の「稻荷文庫」は幕末の私設図書館として有名であり、遠くは秋田県からも荷馬車をひいて多数の書物を借りきたといわれています。

孫陸から会輔社を引き継いだ小保内定身は「新しい日本の国づくり」はまず人づくりが大切であると考え、歴史や礼儀作法、兵法など様々なことを教え、槻蔭舎で学んだ福岡の若者は、近代日本を拓く担い手として大きく羽ばたいていきました。

※会輔社は、『論語』にある下記の言葉をもとに命名されました。

君子以文会友以友輔仁

(君子は文を以て友を会し、友を以て仁を輔く)

「学問によって知り合った友人であれば、相互に人徳(人間性)を高め合っている可能性が高い」